

ソーシャルネットワーキングサービスの利用に関する調査

mixi ユーザの意識と行動

川浦康至(東京経済大学)

坂田正樹(office zelig)

松田光恵(成城大学大学院)

1.調査の目的

メーリングリスト、掲示板・ニュースグループ、ホームページ、ウェブログに次ぐ、第4のコミュニケーション空間として、「ソーシャルネットワーキングサービス」(SNS)が注目を集めている。「友だちの友だちも友だち」を基本コンセプトとするこのサービスは、したがって、多くの場合、既にメンバーとなっている人からの招待がないと参加できない。そのため、「出会い系」に対し、SNSは「知り合い系」と呼ばれることもある。

最初のSNSは、2003年3月に米国で始まったFriendsterである(<http://www.friendster.com/>)。翌2004年1月に登場したorkut(<http://www.orkut.com/>)は、開発者であるオーカット・ブコッテンがGoogleのエンジニアであったこともあり、注目を浴び、日本からの参加者も2万人を超したと言われる(ヒマナイヌ,2005)。

SNSとは何か。Friendsterのトップ画面には、以前つぎのような説明が掲げられていた。"an online service that helps you connect with your friends and discover new friends and interests."つまり、「人間関係の維持」や新たな「人間関係の構築」「興味の開拓」を支えるオンラインサービスである。この説明はSNS一般にもあてはめられる。

日本のSNSは、2004年2月にサービスを開始したGREE(<http://www.gree.jp/>)と、mixi(<http://mixi.jp/>)が最初である。どちらも現在、日記とコミュニティが二大機能として運営されている。当初、両サービスの登録者数は拮抗していたが、2004年の夏ごろからmixiの利用者が急に増え始め、2005年8月、100万人を越えた(表1)。

表1 mixi登録者の推移
(イー・マーキュリー,2005)

時期	人数
2004年 3月	600
4月	4,300
5月	10,000
6月	21,000
7月	36,000
8月	56,000
9月	81,000
10月	118,000

	11月	157,000
	12月	207,000
2005年	1月	257,000
	2月	328,000
	3月	402,000
	4月	494,000
	5月	588,000
	6月	708,000
	7月	843,000
	8月	1,000,000

注：数値はその月の1日現在の登録者数を示す。なお2004年4月までは10の位、それ以降は100の位で四捨五入されている。

SNSでは、その性格上、実名登録と顔写真の公開が原則とされ、運営者側もそう呼びかける。各登録者の個人画面には、それらを含む自己プロフィール、当該SNS内の知り合いリスト、参加登録しているコミュニティのリストなどが掲げられている（mixiの詳細については、<http://mixi.jp/about.pl>を参照されたい）。

本報告は、日本におけるSNSの利用状況を把握するために実施されたユーザ調査の結果である。

2.調査の方法

(1)回答者

調査者の協力依頼に応じてくれた（self-selection）SNS利用者546人。したがって、今回の回答者は積極的な利用者と言える。調査協力の依頼は、mixiおよびGREE内の日記やコミュニティ、筆者の個人ホームページで行った。

(2)手続き

調査実施期間は2005年2月28日から3月14日までの15日間である。回答はフォームによって得た。主な設問は以下の通りである（実際の調査票と単純集計については、川浦・坂田・松田（2005）を参照されたい）。

(a)SNS全般について（登録しているSNS、最もよく利用しているSNS、SNSの位置づけ、今後の利用意向）、(b)最もよく利用しているSNSについて（利用開始時期、利用頻度、利用内容、日記とコミュニティの利用状況）、(c)回答者の特性（生活価値観、信頼尺度、インターネット観、フェースシート）

3.調査の結果

回答者546人のうち94.5%に相当する515人が、最もよく利用するSNSとして(Q2) mixiをあげていたため(表2)、以下の分析では、この515人を対象に進める。

表2 最もよく利用している SNS

サービス	人数 (%)
1.mixi	515 (94.3)
2.GREE	15 (2.8)
3.上記以外	16 (2.9)
計	546 (100.0)

(1)回答者の構成

回答者の平均年齢 (F1) は 32.2 歳 (SD=8.6 歳) だった。最小値は 18 歳、最大値は 72 歳である (図 1)。運営会社の発表によれば、登録者の年齢構成は 10 代 4.2%、20 代前半 28.8%、20 代後半 30.3%、30 代前半 19.6%、30 代後半 8.7%、40 代前半 3.8%、40 代後半 1.5%、50 代以上 3.1%となっていることから (イー・マーキュリー, 2005) 今回の回答者はやや高めにシフトしている。

性別 (F2) では、男性 322 人、女性 193 人と、男性が 63%を占める。同社のプレスリリースによれば、男性 55.2%、女性 44.8%となっていて (イー・マーキュリー, 2005) 今回の調査はやや男性の回答者が多い。

mixi の参加時期 (Q4) については、2004 年 8 月以前が回答者の半数を占めた。全体として、「古参」も「新人」もほぼ均等に分布している。一週間あたりのインターネット利用時間は 25.0 時間 (中央値) で、今回の回答者はネットのヘビーユーザと言える (図 2)。職業別 (F3) では、「技術・研究系勤め人」「事務・営業系勤め人」「生徒・学生」で全体の 57%にのぼる (表 3)。居住地 (F4) についてみると、都市部に住む者が大半を占めている (表 4)。

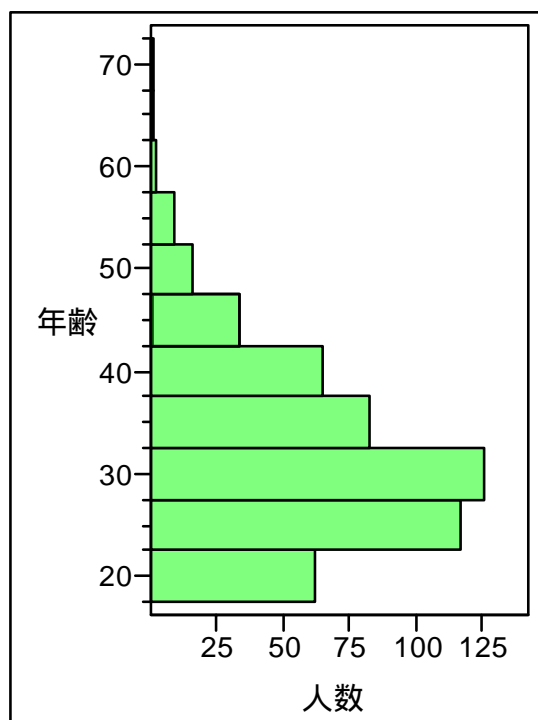


図1 回答者の年齢構成

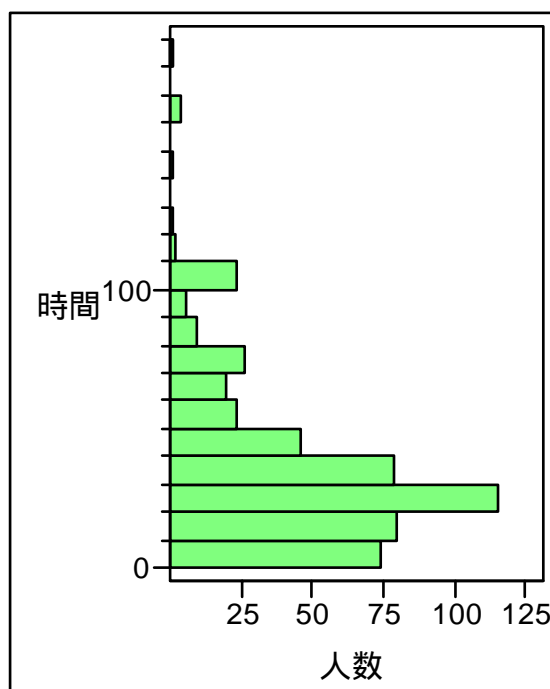


図2 回答者のネット利用時間 (1週間あたり)

表3 回答者の職業

職業	人数
1.技術・研究系勤め人	121
2.事務・営業系勤め人	89
3.管理職	31
4.教員・研究者	28
5.自営業	62
6.自由業	67
7.主婦	24
8.生徒・学生	82
9.その他	11
計	515

表4 回答者の居住地

居住地	人数
1.政令指定都市	269
2.県庁所在地などの大都市	71
3.上記以外の都市	137
4.町村	24
5.海外	14
計	515

(2)mixiの利用状況

参加の経緯 (Q5) 回答者をmixiに招待した人は「現在の友人・知人、家族」が63%と最も多く、「会ったことのないネット上の知り合い」16%、「会ったことのあるネット上の知り合い」13%と続いている。「かつての友人・知人」4%を含めると、「知り合い」が96%にのぼる。

利用手段 (Q6) mixi は携帯電話からも利用できるようになっているが、今回は「もっぱらパソコンで利用している」という回答が67%で最も多かった。「どちらかといえばパソコンで利用している」が31%で続き、両者を合わせると、98%と、圧倒的多数の人がパソコン経由で利用している（その後のイー・マーキュリーのプレスリリース（2005）によれば、携帯電話経由の利用者は約2割を占める）。

利用頻度と利用時間 (Q7、8) 利用頻度は「1日に数回（以上）」が71%、「1日1、2回程度」が23%となっていて、94%もの回答者がmixiを毎日利用している（同じくプレスリリースによれば、3回に1回以上アクセスする人が7割いる）。また、一週間あたりのmixi利用時間を中央値で見ると5時間（1時間単位）で、一日あたりに換算すると、43分となる（図3）。

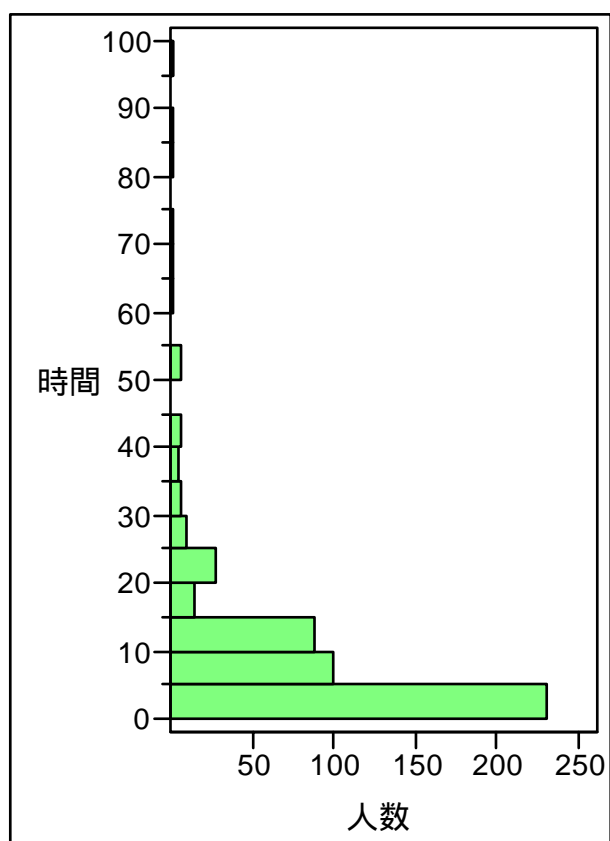


図3 mixiの利用時間（1週間あたり）

主な利用内容（Q9） mixi における主な利用内容を複数回答で求めたところ、表 5 のようになった。つまり、「他人の日記を読む」「日記を書く」「他人の日記にコメントをつける」と、日記関連行動が上位 3 位を占めた。ついで多かったのが、mixi 固有の機能である「足あとをチェックする」で、コミュニティ関連はそのつぎにきている。コミュニティ利用では、当然ながら「発言する」よりも「読む」人の方が多い。

表5 mixiの主な利用内容（複数回答）

利用内容	人数 (%)
1.他人の日記を読む（外部日記やブログも含む）	474 (92.0)
2.日記を書く（同上）	433 (84.1)
3.他人の日記にコメントをつける（同上）	416 (80.8)
4.「足あと」をチェックする	396 (76.9)
5.コミュニティの発言を読む	374 (72.7)
6.コミュニティで発言する	251 (48.7)
7.メッセージ/メール機能でメールをやりとりする	201 (39.2)
8.コミュニティを検索する	165 (32.2)
9.レビューを書く	69 (13.4)
10.登録ユーザを検索する	58 (11.4)
11.レビューを読む	49 (9.5)

ついで、mixiの利用パターンを抽出するため、主成分分析を行った(直交回転、以下同様)。その結果、次の4因子が確認された。(a)mixi内検索と訪問者確認(項目4、7、8、10)、(b)レビュー・カレンダー利用(9、11、12)、(c)日記利用と訪問者確認(1、2、3、4)、(d)コミュニティ利用(5、6)。項目4の「足あとをチェックする」は、(a)と(c)の両因子で負荷が高かったことから、ユーザの検索と、日記が読まれていること(いつ誰が読んでいるのか)の確認という2つの側面を持っているといえる。

個人情報の公開度と、その理由(Q10、11) mixi内の個人ページにあるプロフィール画面には、以下の14項目が用意されている。必須項目として、(a)名前、(b)ニックネーム、(c)現住所(最大で市郡レベルまで入力)、(d)生年、(e)誕生日、(f)出身地(最大で市郡レベルまで)、(g)趣味、(h)自己紹介(自由記述)、(i)(j)(k)好きなもの(「映画」～「休日の過ごし方」までのうち3項目を選び、記入する)、さらに任意項目として、(l)血液型、(m)職業、(n)所属、の3項目が設けられている。「名前」を除く各項目、および日記については、「友人まで」「友人の友人まで」「全体に公開」の3段階で公開範囲を設定できる(生年と誕生日については「非公開」という選択肢もある)。なお写真についてはこうした設定はなく、いわば最初から「全体に公開」となっている。

これらを全体としてみたとき、自己紹介の詳しさはどの程度か、4件法で答えてもらった。その結果、「詳しい方だと思う」11.5%、「まあ詳しい方だと思う」40.8%、と詳しいと回答した人が過半数を占めた。「あまり詳しくない方だと思う」は34.8%、「詳しくない方だと思う」は13.0%にとどまった。

個人情報のキーである名前と顔写真(写真は顔写真を載せることが原則とされている)に絞って、公開状況をたずねた。回答から公開パターンを以下のように構成、集計した。最も多かったパターンが「実名も顔写真もどちらも公開していない」38.4%で、以下「実名で公開している」24.5%、「実名、顔写真ともに公開している」18.6%、「顔写真のみ公開している」18.5%、となった。これらのパターン毎に、その理由(自由記述)を整理したところ、表6のようになった。

各パターンに固有の理由に注目すると、「実名、顔写真ともに公開」している人たちの中では、信頼的な風土形成に貢献したく、あえて公開しているという回答が特徴的だった。「実名のみ公開(顔写真は非公開)」と答えた人たちでは、容姿で判断されたくないという理由が、「顔写真のみ公開(実名は非公開)」と答えた人たちでは親密さの証という理由が、それぞれ特徴的だった。なお、以上の3パターンについては、自分の発見のしやすさに対する期待が共通してみられた。他方、「実名、顔写真ともに非公開」とするグループは、これまでの3グループと明らかに異なる特徴を見せる。つまりサイト固有の事情というよりは、セキュリティはじめインターネット全般にかかわる理由が多くあげられていた。

表6 個人情報の公開度を規定する主な理由(自由記述から)

実名	顔写真	
	公開	非公開
公開	(a)サイトに対する信頼・安心	(a)サイトに対する信頼
	(b)信頼的な風土形成への貢献	(b)実名公開がサイトの基本原則
	(c)実社会との結びつき	(c)信頼の証
	(d)信頼・親密さの証	(d)自分を発見しやすくする
	(e)自分を発見しやすくする	(e)容姿で判断されたくない
	(f)自己宣伝	

非公開	(a)サイトに対する安心	(a)ネットセキュリティに対する不信
	(b)実社会とのつながり	(b)プライバシーの保護
	(c)親密さの証	(c)別人格の実現
	(d)自分を発見しやすくする	(d)自己開示に対する懸念
	(e)自己宣伝	(e)自己を特定されたくない

注：「特にない」「なんとなく」「公開する必要を感じない」という記述は省略した。

日記とコミュニティの利用（Q12） mixi の 2 大機能である、日記とコミュニティに絞って利用内容を尋ねたところ（単一回答） つぎのようになった。「日記の読み書きが主である」「どちらかといえば日記の読み書きが主である」がそれぞれ、36.5%、43.5%（計 80.0%）となり、「コミュニティ利用が主である」3.5%、「どちらかといえばコミュニティ利用が主である」16.5%のコミュニティ志向を大きく上回った。

日記行動（Q13～17） 日記を作成していると答えた人 490 人に、その実際をたずねた。日記の主な内容は「個人的なことがらや身の回りのできごとが多い」と答えた人が「どちらかといえば」も含めると 90%に達し、圧倒的に多い。「社会的な話題やニュースが多い」とする人は 1 割程度にとどまった。記述様式では「事実に関する記述が中心である」と「意見や感想、気持ちが中心である」が、ほぼ半々に分かれた（前者が 54%、後者が 46%）。内容と記述様式の関連を検定した結果、有意差がみられた（ $\chi^2=40.45$, $df=9$, $p<.01$ ）。つまり、「個人的内容」と「事実中心」、また「社会的話題」と「意見中心」という組み合わせが他の組み合わせよりも多く見られた。

日記の更新頻度は概して高く、毎日書く人が 45%いる（「1 日に数回（以上）」8%、「1 日 1、2 回程度」39%）。以下、「3、4 日に 1 回程度」34%、「週 1 回程度」10%、「これよりも少ない」8%となっている。日記につくコメントも多い。1 日分あたりの日記に付くコメント数は、「数件以上」が 32%、「2、3 件程度」が 30%、「1 件程度」が 18%と、日記を書けば必ずコメントが付くという状態の人が 8 割にのぼり、日記を介したコミュニケーションの隆盛がうかがえる（コメントは「ほとんどない」と答えた人は 8%）。なお、更新頻度と被コメント数との関連を分析したところ、有意差がみられた（ $\chi^2=49.08$, $df=12$, $p<.01$ ）。つまり、日記の更新頻度も高い人ほど被コメント数も多い（表 7）。

表 7 日記の更新頻度×被コメント数

日記の更新頻度	1日あたりの被コメント数				計
	1. 数件以上	2. 2,3 件程度	3. 1 件程度	4. ほとんどない	
1. 数回/日	18	8	7	5	38
2. 1,2 回/日	74	57	27	30	188
3. 1 回/日	42	58	39	25	164
4. 週 1 回	15	18	8	11	52
5. それ以下	6	7	5	21	39
計	155	148	86	92	481

注：残差分析の結果、 有意に多い、 有意に少ない $p<.05$

mixi 上の交友関係（Q18、19） リンク相手（mixi 上の知人）の数をたずねたところ、最大値は 1000 人となり、中央値は 21 人だった（図 4）。mixi 会員の登録データを分析した森（2005）によれば

(調査時点の2005年2月における登録者は36万人) 全会員のリンク相手数の中央値は8.8人となっていることから、今回の結果は多めと言える。リンク相手の内訳では、「現実世界での知り合い」の方が多いという回答者が61%を占めていた(「どちらかと言えば」を含む)。「ネット上の知り合い」の方が多いと答えた人は同様に39%だった。

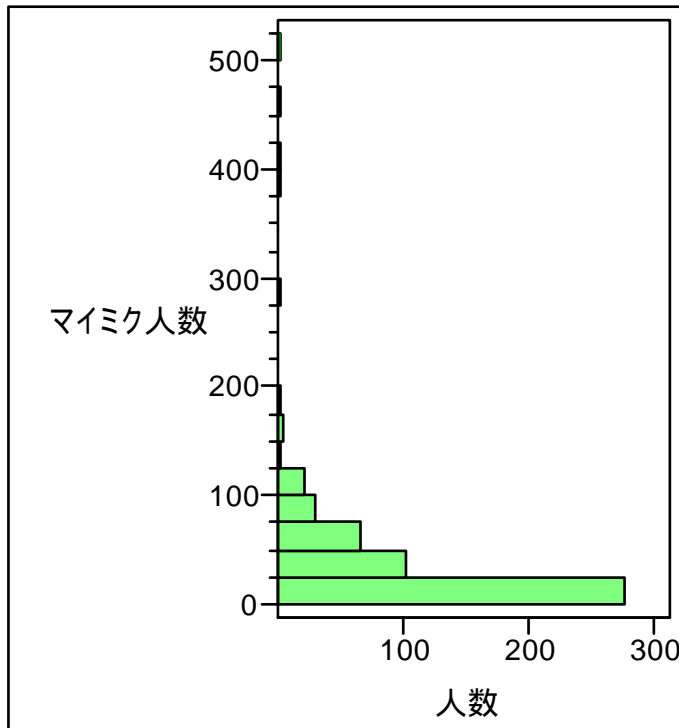


図4 マイミク数の分布

注：1000人という回答(1名)を省いてある。

コミュニティの利用状況(Q20~23) コミュニティの登録数をたずねた結果は図5のようになった(調査時点におけるmixi内のコミュニティ数は約110,000、2005年8月現在で約225,000)。回答の中央値は36個で、森(2005)で報告されている中央値10.8個の3倍を上回る結果となった。回答者自ら開設したコミュニティ数は「なし」という人が289人(56%)と過半数を占める。コミュニティを自ら開設した人226名について、開設数の内訳を調べたところ、「1個」86人、「2個」44人、「3個」34人、「4個」15人、「5個」11人となり、5個までで84%を占める。登録しているコミュニティの内訳では、「趣味つながり」が78%で最も多く、以下「興味・関心つながり」62%、「好み・嗜好つながり」60%が上位3カテゴリーである(表8、複数回答)。地域や年代、学校・会社といった属性を契機とするコミュニティの登録者は少ない(2005年8月現在、登録者の多いコミュニティ上位5位は、「資料になりそうなウェブサイト」32,141名、「笑える画像」27,737名、「これをね、こうやって、ドーン!」24,446名、「iPod User's」23,216名、「Photoshop」22,142名)。

登録状況に関する主成分分析から、以下のような3因子が抽出された。(a)公的契機によるつながり：学校・会社・仕事・サークル関連によるつながり、(b)私的契機によるつながり：趣味・好み・興味・境遇関連によるつながり、(c)デモグラフィック属性によるつながり：地域・年代つながり。

またコミュニティの参加理由として、全体的に対人関係よりも情報交換が重視されている(表9)。オフ会の参加回数では、「なし」が70%、1回が12%と、オフ会参加経験のある人は限られていた。

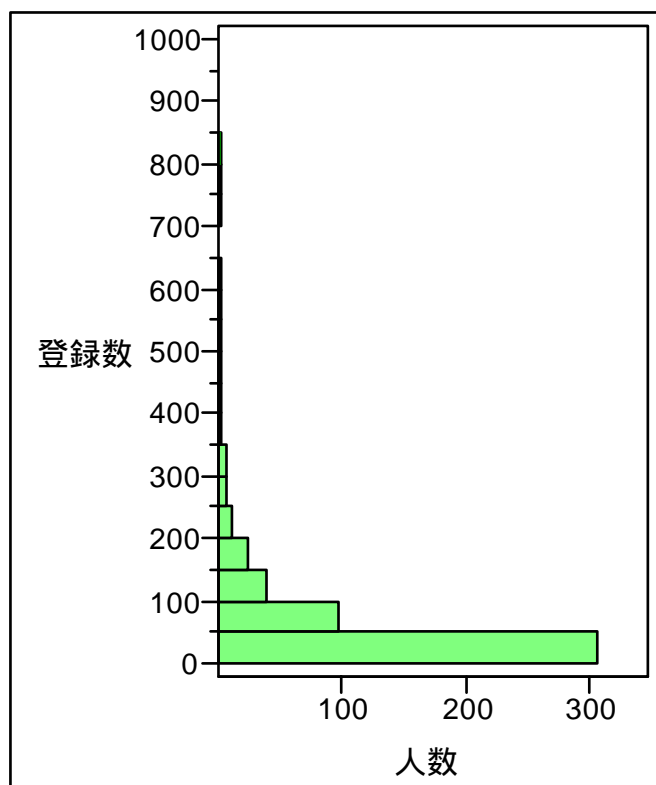


図5 登録コミュニティ数の分布

表8 登録コミュニティの内訳

カテゴリー	人数 (%)
1.趣味つながり	401 (77.7)
2.興味・関心つながり	319 (61.9)
3.好み・嗜好つながり	310 (60.2)
4.地域つながり	181 (35.2)
5.同年代つながり	112 (21.8)
6.学校つながり	102 (19.8)
7.会社・仕事つながり	98 (19.0)
8.境遇・状況つながり	75 (14.6)
9.サークル・グループ・ゼミつながり	68 (13.2)
10.SNS 関係	60 (11.7)
11.その他	13 (2.5)

表9 コミュニティの主な参加理由

理由	人数 (%)
1.情報交換をしたいから	376 (73.0)
2.情報を入手したいから	363 (70.5)
3.知り合いを増やしたいから	151 (29.3)

4.自己紹介の手段だから	127 (24.7)
5.現在の人間関係を深めたいから	109 (21.1)
6.オフ会に参加したいから	63 (12.2)
7.旧交をあたためたいから	60 (11.7)
8.仕事仲間を見つけたいから	44 (8.5)
9.自己を売り込みたいから	35 (6.8)
10.その他	23 (4.5)

mixi の位置づけ (Q24) 回答者自身にとっての mixi の位置づけをたずねた結果、回答の最も多かった選択肢は「情報交換をする場」で、72.4%にのぼった。以下「情報を得る場」65.8%、「現在の人間関係を深める場」49.6%と続き、どちらかと言えば回答者たちは情報を契機とするコミュニケーションを志向しているようすがうかがえる（複数回答）。主成分分析を適用したところ、(a)「自己を売り込む場」「仕事仲間を見つける場」「知り合いを増やす場」に負荷の高い「人脈形成」因子、(b)「旧交を温める場」「現在の人間関係を深める場」「自分の居場所」といった項目の負荷が高い「対人関係維持」因子、(c)「ひまつぶし的手段」「情報交換をする場」「情報を得る場」「自己表現の場」で負荷の高い「道具」因子の計3因子が抽出された。

mixi 利用による満足・経験 (Q25) mixi に関する経験や行動のリストをかかげ、それらの経験度や負担感などをたずねた。過半数の回答があったのは、「日記にコメントされたら、それに対するコメントを書かなければと思う」「仲間とのやりとりが楽しい」「紹介文を書いてくれた人には、こちらを書かなければと思う」の3項目だった（表10）。これは「知り合い系」ならではの結果と言えよう。ついで主成分分析の結果、つぎのような3因子が抽出された（逆の表現になっている選択肢や回答の少ない項目を分析対象から除外した）。

(a)友人との親密なコミュニケーション 仲間とのやりとりが楽しい、SNSに参加していることを人に教える、知り合いの意外な側面に接する機会が多い、知り合いが身近に感じられる、疎遠になっていた人と連絡を取り合うようになった、紹介文によって、知り合いが自分をどうとらえているかわかった

(b)日記や紹介文における相互作用規範 日記にコメントされたら、それに対するコメントを書かなければと思う、紹介文を書いてくれた人には、こちらを書かなければと思う、こちらから積極的に紹介文を書くようにしている

(c)個としてのふるまい ネット世界と現実世界では自分のキャラクターが違う、SNS ユーザは信頼できる人が多い

表10 mixi における経験と行動

経験・行動	人数 (%)
1.日記にコメントされたら、それに対するコメントを書かなければと思う	353 (68.5)
2.仲間とのやりとりが楽しい	317 (61.6)
3.紹介文を書いてくれた人には、こちらを書かなければと思う	281 (54.6)
4.mixiに参加していることを人に教える	233 (45.2)
5.知り合いが身近に感じられる	224 (43.5)
6.疎遠になっていた人と連絡を取り合うようになった	187 (36.3)
7.知らない人からメッセージが来る	156 (30.3)

8.知り合いの意外な側面に接する機会が多い	154 (29.9)
9.紹介文によって、知り合いが自分をどうとらえているかわかった	150 (29.1)
10.知らない人からリンクの依頼が来る	98 (19.0)
11.こちらから積極的に紹介文を書くようにしている	85 (16.5)
12.mixi(SNS)ユーザは信頼できる人が多い	69 (13.4)
13.ネット世界と現実世界では自分のキャラクターが違う	63 (12.2)
14.なかよしグループ的なやりとりに違和感を覚える	53 (10.3)
15. mixi(SNS)に参加していることを人に知られたくない	32 (6.2)

mixi 利用時間を規定する要因 mixi の接触量を規定する要因を探索的に検討するため、mixi の一週間あたりの利用時間 (平均 10.19 時間、SD=14.16、中央値 5.0) を目的変数とする決定木解析 (JMP の CART) を行った。5 層まで求めた結果、最初の分岐は Q24 「mixi の位置づけ」に関する設問で、mixi を「自分の居場所」と回答した人 (N=67) の平均は 21.14 時間、そうでない人 (N=449) の平均は 8.58 時間となった。最も利用時間の多かった枝は、「mixi の位置づけ：自分の居場所である (該当する)」→「日記の更新頻度：一日 1 回以上」で、平均利用時間は 27.6 時間だった (N=41)。逆に、利用時間が最も少なかった枝は以下のようなだった。「mixi の位置づけ：自分の居場所である (該当しない)」→「Q18 リンク相手：45 人以下」→「登録コミュニティ：69 個以下」→「mixi の利用意向：気に入っている (「そう思う」以外)」で、平均利用時間は 4.1 時間だった (N=133)。

(3) SNS 全般に対する評価

SNS に対する評価をいくつかの項目で求めた (Q26、4 件法)。そのうち、(a)気に入っている (平均 3.58、SD=0.61) (b)今後も使い続けたい (平均 3.58、SD=0.59) となり、高い値を示した。

(4) 利用者の心理特性

生活価値観 (Q28) SNS ユーザの生活価値観を調べるため、「社会階層と社会移動」全国調査 (SSM) の設問を用いた (今田, 2000)。これは 8 項目からなり (表 11) 「生活志向」と「階層志向」の 2 因子が確認されている。SSM (N=2630) の結果と比較したところ、SNS ユーザの方が有意に高かったのは「社会的評価の高い職業につくこと」のみで、低かったのは「家族から信頼と尊敬を得ること」「ボランティア活動など社会活動で力を発揮すること」「高い収入を得ること」「高い学歴を得ること」だった。

表 11 生活価値観

質問	cf. SSM(1995)	
	平均 (SD)	平均 (SD)
生活志向 1. 家族から信頼と尊敬を得ること	3.15 (0.85)	< 3.58 (0.65)
2. ボランティア活動など社会活動で力を発揮すること	2.51 (0.85)	< 2.94 (0.82)
3. 趣味やレジャーなどのサークルで中心的な役割をになうこと	2.34 (0.87)	2.36 (0.82)
階層志向 4. 高い収入を得ること	2.89 (0.80)	< 2.94 (0.83)
5. 社会的評価の高い職業につくこと	2.47 (0.88)	> 2.38 (0.90)
6. 多くの財産を所有すること	2.46 (0.89)	2.33 (0.82)

7. 高い地位につくこと	2.11 (0.87)	2.05 (0.79)
8. 高い学歴を得ること	2.08 (0.82)	< 2.39 (0.88)

注：回答は 4 件法、数値が高いほど、それが重要であることを示す。SSM(1995)の基本統計量は、http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/chosa-hyo/0260c_b.html から算出した。不等号は t 検定の結果、有意になったもの ($p < .01$)。

インターネット観 (Q29) インターネットは「今までの関心や人付き合いを補強する形で役立っている」「新しい関心や人間関係を自分にもたらしめている」という二文を提示し、自身の印象はどちらにより近いと思うか、答えてもらった。その結果、前者の補強派が「どちらかといえば」も含めて 200 人 (38.8%)、新規派が同様に 315 人 (61.2%) と分かれた。これまでの調査では、積極的なネットワーカーほど新規派が多く (川浦, 1997)、今回も同様の結果が得られている。

信頼尺度 (Q30) 一般的信頼、パーソナルな信頼に関する 6 項目中 (山岸, 1998) 最も肯定度の高かった項目は「知らない人よりも知った人の方がずっと信頼できる」で、5 件法で平均 4.07 だった (表 12)。対照的に低かったのは、「ほとんどの人は他人を信頼している」3.35 だった。山岸 (1998) によれば、一般サンプルの平均は、前者が男性一般 4.01、女性一般 3.95、後者が男性一般 3.05、女性一般 2.91 となっていて、今回の回答者の方が高めである (標準偏差が不明のため、検定は行わなかった)。

表 12 信頼尺度

尺度項目	平均(SD)	cf.平均
パーソナル信頼		
1. 知らない人よりも知った人の方がずっと信頼できる	4.07 (0.82)	4.01 / 3.95
一般信頼		
2. 私は人を信頼するほうである	3.93 (0.84)	4.04 / 3.79
3. たいていの人は人から信頼された場合同じようにその相手を信頼する	3.86 (0.75)	3.67 / 3.54
4. ほとんどの人は基本的に正直である	3.68 (0.78)	3.93 / 4.08
5. ほとんどの人は信頼できる	3.46 (0.74)	2.65 / 2.41
6. ほとんどの人は他人を信頼している	3.35 (0.69)	3.05 / 2.92

注：参考(cf.)でかかげた平均は、山岸 (1998) による。数値は前者が男性一般(N=167)、後者が女性一般(N=39)を示す。

4.最後に

「命を賭するに値するもの」とまで強調される「社交」、重要度は増す一方であるにもかかわらず、実際には軽んじられている (山崎, 2003)。自分や他人に関することからを個人情報という名のもと、「保護」(個人に関することからを「出しつつ」守るのではなく、「出さないで」守るという、あまりにも脆弱な発想) がエスカレートし、社交 (理念) はますます困難になっている。このまま行けば、いずれ外出時は全身をすっぽり覆うような服装 (KKK の白装束のような個人を特定できない共通のデザイン) で、ということになりはしないだろうか (監視カメラ対策として有効かもしれない)。かたや、顔の見えない世界が、リアル空間 (たとえば、匿名による脅迫) でも、ネット世界 (匿名掲示板の「世論」など) でも肥大化している。

社交とは知情意の共有であり、当然社会とつながっている。個々人の知情意はネットワーキングすることで、はじめて意味を持ち、結果的に社会や個人のそれを豊かにする。こうした社交に対する渴望の一部が、SNS の隆盛に反映している可能性はないだろうか。今回の調査でも、それをうかがわせるような回答が調査票末尾の自由回答にあらわれている。その膨大な「生の声」を、本報告の資料として収録したので、ぜひお読みいただきたい。最後に、本調査を一つの材料として、SNS 行動の分析が進めば幸いである。

(文責・川浦康至)

付記 本調査は、SNS 研究会(川浦康至・坂田正樹・松田光恵)によって実施された。

謝辞 研究のとりまとめに対し、東京経済大学個人研究助成費による支援を受けた。この場を借りてお礼を述べたい。

文献

- イー・マーキュリー 2005 イー・マーキュリーの SNS 『mixi』、ユーザ数 100 万人を突破 [Online]
<http://www.emercury.co.jp/press/050803.html>
- ヒマナイヌ(監修)2005 ソーシャル・ネットワーキング・サービス 翔泳社
- 今田高俊 2000 ポストモダン時代の社会階層 今田高俊(編) 社会階層のポストモダン：日本の階層システム5 東京大学出版会 Pp.3 53
- 川浦康至 1997 イメージとしてのネットワーク世界 池田謙一(編) ネットワーキング・コミュニティ 東京大学出版会 Pp.104-116
- 川浦康至・坂田正樹・松田光恵 2005 【単純集計】SNS (mixi) の利用に関する調査 [Online]
<http://www8.plala.or.jp/revir/sns/>
- 森 祐治 2005 ソーシャル・ネットワーク・サービス内部におけるユーザ・ネットワークの分析 第22 回情報通信学会大会予稿集 [Online] <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsicr/2005/2005tai-pdf/MoriYuji.pdf>
- 山岸俊男 1998 信頼の構造 東京大学出版会
- 山崎正和 2003 社交する人間：ホモ・ソシアビリス 中央公論新社

資料

調査票末尾の自由記入欄「ソーシャルネットワーキングサービスの利用にまつわること(楽しかったこと、大変だったこと)、サービス提供側への注文や問題、また調査に関するご意見やご質問、これまでの項目で書けなかったことなどありましたら、お書きください」に対する回答がたくさん書かれていて、SNS の理解に役立つこと、また今後の研究に供する部分があることから、主な回答を紹介する(回答は年齢別に配列、カッコ内の数字は年齢を示す。表現は、文意を損なわない範囲で修正した)。

10 代 他人に見せる日記を書くのが難しい(18・男)●意外なところで知り合いに出会う。いろいろな考え方に触れられる(18・女)●周りにいなかった自分の好みと合う人と知り合えるのはうれしいが、自分と合わない人が多いのも事実。それは現実世界と同じなので。現在、SNS で出会

った人と仲よくしてもらっている。出会いに感謝している(18・女)●いろいろな人のいろいろな部分が見られる。ちょっとした書き込みから輪が広がった。ただ、たまに変な人がいる(18・女)●人集めのためにマルチポストをしたところクレームが殺到した。しかし起業に協力してくれそう

な人材に出会えた(19・男)

20歳 外国人が増えてほしい(20・男)●有名人にメッセージをもらえた(20・男)●自分のアンテナには限界があるが、コミュニティに所属していると、その不足分を補うだけの情報や意見が聞ける(20・女)●友人関係が広がり、今まで経験したことのないことや、念願の同業者チームを結成できた(20・女)

21歳 個人情報保護法への対応や、プライバシーマークの取得の遅れが気になる(21・男)●他人の日記を読むのが楽しい(21・男)●足あとは楽しいが、怖いときもある(21・男)●時が経つにつれ、新たに「友だち」として登録する相手は減っている(21・男)●SNSは学校や会社と同じく、不安定な信頼関係の下で生きているシステムである(21・女)●友人の日記を読んでいる。SNSは初期のインターネットのようである(21・女)●写真を載せられるのが楽しい。インターネットは文章が中心だから、他人の目線にふれられる(21・女)

22歳 共感できるコミュニティが見つかった(22・男)●多くの人が、招待制という安心感のもと、知らぬうちにかなりの個人情報を公開している。将来、SNS内の方が危険ということになるかもしれないので、引き際に注意している(22・男)●コミュニティにチャット機能がほしい(22・女)●海外留学した友人や疎遠だった友人の現況がわかり、コミュニケーションも楽にとれる(22・女)●手で書くよりもタイプした方が楽なので、毎日日記を書くようになり、一日一日を振り返るようになった。日記を見返すのも楽しい。趣味を共有する人との交流が増えた。これからも積極的に利用したい(22・女)●憧れていた人のページにコメントしたら、私のページに来てくれた(22・女)●旧友をSNS上で探すのが楽しい(22・女)

23歳 足あと機能がなければ、ここまではまることはなかった(23・男)●SNSで知り合った人から、イベント招待機能を使ってオフ会に誘われたとき、コミュニケーションの敷居の低さを感じ

じた(23・男)●それほど親しくなかったバイト先の仲間とSNSで偶然つながり、交流していくうちにリアルでも仲よくなった。SNSは重要なコミュニケーションツールになっている(23・男)●知り合いが増えた(23・男)●若年層(小・中・高)のSNSがあつたら、どう利用されるのだろう(23・女)●自分の作品に対するコメントを多くもらい、参考になった。昔会ったまま連絡の取れなかった人とサイト内で再会、実際に会うことも何度もあり、そのうち気に入ってくれた人から仕事の依頼があつた(23・女)

24歳 時間をとられすぎているように感じる(24・男)●SNSに参加しなければ得られなかったような人との繋がりが得られた。おもしろいコミュニティ形成の場だと思う(24・男)●出会い系と変わらない(24・男)●足あと機能は付ける側も付けられる側も選択制にしてほしい。監視されているようで窮屈だ(24・男)●デジカメを持っていないと、写真のアップが面倒だ(24・女)

25歳 プロフィール機能が弱い。好きな音楽や映像、アルバムが貼れるとよい(25・男)●何がおもしろいのか理解できない。現実の関係を可視化するだけで魅力を感じない(25・男)●大規模なコミュニティには内部抗争の起きる可能性がある。不愉快なことも稀にある。捨てアカウントの問題もあるので、フリーメールでの登録に疑問を感じる(25・男)●コミュニティ発のイベントを通して、多くの友人たちと出会ったり、インターネットでのコミュニケーションを前提とすることで、現実的な交流の場をより広い範囲で考えていけるようになった。個人の立場や考え方、性格の違いが表面化し、揉め事が起きた(25・男)●海外旅行中に招待されたので、格好の旅日記になった。あっという間に友人が増え、ちょっとした「優越感」を感じた。日記一つ一つに閲覧権限をつけられないので、「この人には見せたくない」といった内容が書けない(25・男)●紹介者しか参加できないのはいい(25・男)●短編小説など、創作発表の場として使っている。仕事柄、あまり具体的なことは書けないので、日常の出来事を書

くのはほどほどにしている(25・男)●ながらく匿名掲示板の世界にいたので、個人が明確に分かる SNS は新鮮である(25・男)●友だちになった人と遊びに行くようになり、普通の生活では得られない人と知り合えた(25・男)●出会い系と勘違いしている人が少なくない。同じ人から何度もメールやリンク申請が来て不愉快な思いをした。一度築いた人間関係が壊れると、自分自身に紹介メールを送って新しく入り直し、また同じようなことを繰り返す。こうした負のスパイラルに落ちている人を見かける(25・女)●どう活用しているかわからない(25・女)

26 歳 連絡の取れない友人とも常に会っている感じになれる(26・男)●疎遠だった知人から連絡がきた。今後ユーザーが増えれば、クローズドな環境が形骸化してしまうのではないだろうか(26・男)●些細なことから口論になったまま疎遠だった知り合いと仲直りできた。ながらく音信不通だった人と再会できた(26・男)●新しい出会いが増え、旧友と再会できた(26・男)●知らない相手や嫌な相手でも、付き合わなければいけないことに違和感を覚える(26・男)●友人に紹介された人のみが登録可能であるというシステムは、2ちゃんねるや Yahoo オークションにおける紹介権の流出で、破綻しつつあるような気がする(26・女)●はまっている自分に気づいたとき、自己嫌悪に陥るが、やめられない(26・女)●いかに使うかが一番重要なことなのかもしれない(26・女)●どんな形であれ、SNS もまた新しい出会いである。相手が見えない分、こちらも慎重になりがちだが、素敵な友人にも出会えた。やって損はないし、これからも続けていきたい(26・女)●ネット上で知り合った人と交流が得られた。こんなことが出会い系サイト以外でもあるのだと驚いた(26・女)●はまる人とはまらない人の違いは何なのか。場はうまく利用したいけど、馴れ合いは避けたい(26・女)●日記を始めたが、三日坊主でやめてしまい、バーチャルでの友人などもできず、現実社会にハマっている。しかし友人は現実世界でも人間関係は充実し、バーチャル世

界でも多くのつながりを築いている。それがうらやましい(26・女)●本音の語れる隠れ家的サイトだったが、偽名で登録している知り合いに日記を読まれ、現実社会で大変な目にあった。低年齢化を危惧している。仕事が発展するような大人のサイトであってほしい(26・女)

27 歳 近々オフ会に参加する。場所と日時を決めるだけではなく、出席確認をとった上で集まる(27・男)●自分たちの主催したオフ会に 100 人以上もの人が集まった。毎日のようにお茶したり、まるで昔からの友人のように付き合っており、自分の人生が大きく変わった。感謝しても足りない(27・男)●インターネットに詳しくない人や面倒くさがりの人はすぐ幽霊メンバーになってしまうので、それを防ぐような手立てを講じてほしい(27・女)●何年も音信不通だった旧友や、前の職場の人と再会できた。前の職場の先輩の結婚式に行き、リアルでも再会できた。それ以降、SNS での交流が楽しい(27・女)●疎遠になった友人を偶然見つけたり、知らない人とコミュニケーションをとったりしている(27・女)●同じ趣味を持った人と出会えるのは魅力である。ある程度の秩序や暗黙のルールがあるからか、SNS で出会う人から害を受けたことはない。ただ今後、SNS 内で犯罪につながりそうなコミュニティができたなら、誰が管理するのか、ガイドラインを明文化していかなければならない(27・女)●非常に興味深いサービスだと思う(27・女)

28 歳 チャット機能があってもいい(28・男)●SNS を利用し始めてから、いろいろな分野の人間関係を同じ階層に並べて見ることができ、おもしろい。だが、知られたくない人間関係がある人には、さまざまな問題が発生するかもしれない(28・男)●いろいろな趣味嗜好を持った人間がこれほどいるのかと実感している(28・男)●何かのきっかけで誹謗中傷も起きると思っていたら起きた(28・男)●自分の誘った人がいるので、やめるにやめられない(28・男)●文章を書くことや書いた文章に責任を持つことの大変さに気づいた(誤字や脱字を含む)(28・男)●知らない人

の日記が気軽に読み、書くのも楽しく、いろいろ発見がある。コミュニティは、自己紹介的要素以外にあまり役に立っていないような気がする。実際、コメントの少ないコミュニティもある(28・男)●日記や写真に付けられたコメントを消したくても、それができないので困る(28・女)●人付き合いが苦手だったが、SNSを教えられ、こういう付き合い方もあるのだな、と新鮮な思いをいただいた(28・女)

29歳 SNSでつながっている友人は、最も仲のいい人というよりは、かつて仲がよかった人であったり、ちょっとした知り合いが多い。この細かい糸を維持することが、人生にとってメリットがあるように感じる(29・男)●SNSに参加していることを誰に教え、教えないかの線引きで気を遣う。知人AにSNSへの参加を教えると、Aと仲のよくない知人Bのプライベートを、Aが知るきっかけになりそうで、迷っている(29・男)●新しい人間関係を広げることができ、感謝している。管理者は個人情報の管理に気をつけてほしい。今後も自己責任の下、有意義に使っていききたい(29・男)●SNS内で知り合った人からの依頼で仕事を引き受けたら、最終的にトラブルとなり、大きな損害を被った。SNSである程度相手のことがわかったつもりでも、通常の社会同様、信頼に値する人物かどうかを見極めるのは難しい(29・男)●他の人はどう利用しているのか興味がある。今のところコミュニティはほとんど利用していないし、ネット上の知人もいない。ネット上で知り合うことは悪いことではないと思う。ただ悪い人たちもいるので、気軽に利用できない(29・男)●パソコン通信と変わらない(29・男)●名刺代わりになる(29・男)●役立つことが多い(29・男)●Blog、SNSと、ネットにおけるコミュニケーション手段がHPにとどまらず、「つながり」ができ始めた中で、mixiは敷居の低さと操作の容易さで浸透が早かったのだと思う。ネットマナーをとやかく言うほど腹立たしい出来事に遭遇していないのは、私のマイミクは知り合いが大半だからだと思う。SNSは日常生活の延長上にある

(29・女)●SNSに興味があったのだけれど、機会がないまま時間が経過し、ようやく入会したと思ったら、大勢の友人が参加していることを知り、仲間ハズレにされていたような気分だった(29・女)●ふだん会えない友人の近況がわかる。面識のない人との交流や意見交換も楽しい(29・女)●よく知らない人に友だちヅラされ、少し面倒だった(29・女)●かつて好きで、忘れかけていた音楽やアートの趣味が似た人と出会い、復活した(29・女)●広告バナーが大きかったり商売っ気が強いと、知り合いを招待しなくなる(29・女)●高校のコミュニティのオフ会で12年ぶりに再会し、知り合った人とその後SNS上でやりとりしたり、同じ名前と言うだけで知り合いになったり、一緒にライブに行ったり、憧れのミュージシャンとSNS上で交流したり、そのミュージシャンのコミュニティを作ったら「コミュニティを作ってくれてありがとう」と言われたり、出会いと親交を深めてくれている(29・女)●マスメディアでも紹介されるようになり、参加者も増えたが、閉鎖空間のままであってほしかった。悪用するために参加する人も多く、スパムメッセージが増えている。別のメールアドレスで入り直して、SNSでの自分を作り直すことを考えている(29・女)●知らない人にとって出会い系のイメージが強いのか、誘っても断られるケースが多い。もっとオープンで、恋愛とは無関係なイメージ作りが必要ではないか(29・女)●信頼のおける人しか訪れないので、ホームページを開設していたときよりストレスが少ない(29・女)●病気で会社を辞めざるをえなかったとき、そのことを日記に書いたら、いろいろな人からメールが届いた。同じように苦しんでいる人からもコメントをもらった(29・女)

30歳 GREEとmixiを使い分けているので、そういう設問もほしかった(30・男)●個人情報保護法施行により、セキュリティを見直してほしい。ユーザーの年齢があがっても利用され続ける場であってほしい(30・男)●SNSは商用BBSのインターネット版のようだ。昔の友だちに再会

でき、楽しい(30・男)・日記が気になる(30・男)・「知り合いでない人にミクリクを送るのはやめましょう」と書いてあるにもかかわらず、知らない人からときどきリクエストが届く。断りたいが、握手を求められているのに無視するようで、実際、応じてしまった。後悔している(30・女)・「友だちの友だちだから安心」だとしても、利用者が増えれば「安心」して利用はできなくなるのではないか。「友だちの友だち」だからこそやっかいなこともある。会員数が増えて盛況になるほど、SNSの内と外の差はなくなってしまうような気がする。他人の日記やコミュニティの掲示板を読むだけで、リンク相手は増やしていない(30・女)・SNSに誘いたくても、出会い系や宗教の勧誘と勘違いされ、うまくいかない。SNSのうまい説明を知りたい(30・女)・プロフィールの公開レベルの設定は、発見してもらってうれしい人と、そうでない人がいるので、難しい(30・女)・基本的には楽しい。SNS内恋愛とかの話を聞くとちょっとイタイ。参加者が増えたら、コミュニティのトラブルは増え、結局匿名掲示板と同じかなと思ったりする。ツールとしてうまく使うのがむずかしい(30・女)・趣味を共有する友だちが増えてうれしい。実際に会った人もいるので、これからも会ったり話したりできればいい(30・女)・小学校時代のクラスメイトに再会したり、憧れだった人とSNS上で交流したり、SNSがなければありえなかったことがたくさん起きている。SNSは他のサイトに比べ信頼性があるように思う。生活の一部になりつつある(30・女)・先日初めてオフ会に参加した。いい人ばかりで楽しかった。一度顔見知りになると、コメントや日記に対して親近感を抱くようになり、SNS上での付き合いも変わってきて、楽しみが倍増した(30・女)・相手の顔が見えないので、常に人間を相手にしているのだという意識を持ち続け、節度を持ち続けた(30・女)

31歳 違う世代の人と気軽にコンタクトでき、楽しい(31・男)・疎遠だった友人とコミュニケーションができるようになった。友人の友人を紹介

してもらった機会はリアル世界ではほとんどないが、ネットであれば、気軽にできる(31・男)・仕事のプロジェクトが始動した(31・男)・いままで単なる読者だったWeb上の有名人と交流するようになり、世界が広がった。週刊誌で、SNSが出会い系であるかのように紹介されていたが、現実世界でも新宿に行けば映画館や居酒屋と並んで風俗があるように、社会とは雑多なものであるということ認識して利用すべきだ(31・女)・リアルの友人には話せないことを聞いてくれる人に多く出会えた。オープンではない分、開放的になれる(31・女)・なかなかなじめなかった。今年に入って少し更新するようになった。以前からwebで日記をつけているし、趣味でHPを運用している。SNSはこれから活用していきたいと思っている(31・女)・超ご近所さんがSNSに入っていた。当の相手は気づいていないが、この人の家族はうちの息子の悪口を言いふらした人なので、用心している(31・女)・日記のダウンロード機能がほしい(31・女)

32歳 入会を誘っても断られることが多い。メッセージの保存やダウンロードのサービスがほしい(32・男)・招待者の脱退は悲しかった。mixiは時代の牽引役として頑張ってもらいたい。素敵な出会いの場に感謝している(32・男)・とにかく荒れないような雰囲気作りに力を注いでほしい(32・男)・ブログをメインに活動しているので、SNSにハマる感性が理解できない(32・男)・もっと早く始めればよかった。日記や掲示板に関しては、メンバー以外の人でも読める仕組みがあってもいいと思う(32・男)・楽しいけど、依存症になりそうで怖い気がする。自分のページを見ている相手が把握しにくく、怖い部分もある(32・男)・ごく稀ながら、新しい人との繋がりができた(32・男)・仕事でも知り合うことがなかったような人と出会え、有意義に使っている。ネットワークという特性上、いざこざがあったりもするので、コミュニケーションツールのひとつとして捉えるようにしている(32・男)・前彼女をマイクから切れない(わたしが招待したので)。疎

遠になった人をマイミクから切れない。この2つが不便(32・男)●ただ登録者数を増やすだけの人や、意味もなくコミュニティを仕切りたがる人がいるので、そうした行為を検出して制限できるといい(32・男)●大学の後輩と知り合えた(32・女)●別居している兄弟の恋愛ネタをリアルタイムで知ったり、肉親+知人の知人くらいまでの近況が毎日わかる。趣味系コミュニティは、2ch をカスタマイズするより手軽に密度と鮮度の高い情報が手に入り、一度利用したらやめられない(32・女)

33 歳 ホームページの運営に比べ、相手の顔がよく見える(33・男)●個人情報の保護に注意してほしい(33・男)●mixi の足あと機能をはずすことができたらいい(33・女)●mixi のみが注目され、他の SNS はどんな状況なのか気になる(33・女)●知人以外とはリンクしたくないので、マイミク申請してきた人を断ったら逆切れされた(33・女)●日記を読んでいると、精神的に不安定な人や薬を飲んでいる人が意外に(知り合いに)多いことがわかり、もっと気を使えばよかったな、と反省している。知人の知らない一面(面と向かっては聞けない部分)がわかる半面、リアルな関係だったら嫌いにならなかったかもしれない、とも思った(33・女)

34 歳 使い始めたばかりでハマっている。これから怖さが分かってくるのだろう(34・男)●知り合いの輪が広がった(34・男)●友人は信用できても、友人の友人まで行くと必ずしも信用できるとは言えず、SNS の安全性は結局のところ大したことはない。妙に信じきって、無防備だったりする人を見かけるたびに心配になる(34・男)●SNS での交流がきっかけで、数人が展覧会を見に来てくれた。今後、制作を続ける上での大きな励みになった(34・女)●リアルな友だちを通して新しい知り合いができた場合、SNS をやっているかどうか確かめて、それが自分も入っているサービスであれば、友だち登録をして連絡を取り合うようにしている。そういう意味で、SNS は新しい連絡手段のひとつでもある(34・女)

35 歳 交友範囲が広がった。新しい人間関係はよい刺激になっている(35・男)●SNS をやっていなければ知り合いになれなかったような人と知り合えた(35・男)●向こうからアプローチされ、付き合い、彼女は妊娠。結婚式の目前で流産、別れを切り出された。SNS は幸福をもたらすのか悲劇をもたらすのか、自分の双肩にかかっている(35・男)●チャットサービスがあると出会いがさらに広がる(35・男)●大学や仕事でそれぞれ関わっていた分野、そして普段の趣味的な関心の分野とも、女性としてはあまり一般的なものではない。主婦になり母親になった現在、日常生活でそうした自分を表現するのは賢明ではない。かといって、価値観を一般の主婦に合わせることもできないので、SNS は素直に、また浮くことなく自分を出せる唯一の場と言える(35・女)

36 歳 10 年ぶりに再会した友人と連絡が取れた。ネット上でかつての友人を探し出すのは想像以上に難しい(36・男)●ネットや掲示板の使い方(コメントの書き方など)に不馴れな人間が多く、困っている(36・男)●HP 制作の練習がてら始めたが、意外な人と知り合いになれた(36・男)●後輩に当たる元同僚が SNS 上にある私の紹介文を書いてくれた。私はすっかり忘れていたのに、彼はずっと覚えていてくれ、それとなく人が思うこと、心に留めていることの意外性に驚いた。こういった趣味嗜好が表れるサービスを共有していると、その人の意外な面が見える(36・男)●始めてまだ1ヶ月足らずなので、何とも言えない。ホームページやブログとは異なるコミュニケーション手段を見つけたような気がする。個人的にふるまえるところがいい(36・男)●誰でも参加できるオープンな場にすべきである。紹介がないと入れない、のは気に入らない(36・男)●長い間、会っていなかった友人や知人と再会できた(36・男)●オンラインやオフラインの表示、チャット機能などあるといい(36・女)●知りたい情報が得られ、友人もできた(36・女)

37 歳 複数の自分を使い分けできない。仕事・学校でのネットワークと趣味のネットワーク

とではつながる人も違うし、あるネットワークのことを他のネットワークの人に知られたくない(37・男)●SNS が有効かどうかは、使い手次第。結局はリアルな人間関係を補完するツールに過ぎない(37・男)●以前はメーリングリストによる交流やオフ会などがメインだったが、SNS 加入以降はネット上での知り合いが急激に増えた。メーリングリストでは足りない部分を補完している(37・男)●知り合いが増えた。同業者で、いままで知り合うはずのなかった人たちと知り合える楽しみ、仕事に関わりなく、素の自分を見てもらえる(37・男)●昔チャットで交流していた相手と、ふたたび自分の部屋のような空間で気軽に交流できるようになった(37・女)●自分が招待した人で、まったくログインしていない友人がいるので、お飾りマイクが嫌いな私にとって悩みの種である。すぐに日記のレスが返ってくるのは楽しい。また日記につらい状況を書いたら、わかってくれる人が多くいた。嫌いな人を ID ブロックするのが大変(37・女)●当初、同年代の人にこのサービスを紹介しても胡散くさがられた。実社会でテニスサークルを主宰しているが、SNS でメンバーを募ると、これまでの人と違うタイプの人が多く参加し、新しい世界の友人が増えた(37・女)●情報交換といつつ、教えてほしい系の問い合わせが多く、対等な give&take になっていない。相互に提供しあう姿勢が望ましい(37・女)●日記で、十数年会っていない知人の日常や考え方がわかる。名前しか知らなかった知人たちが、急に親しい友人のように感じられてきた(37・女)

38 歳 @nifty のフォーラムの移転先は SNS、という気がしている(38・男)●はまっている。仲間のおかげで自分の精神病が完治した(38・男)●本当は SNS は好きではない。「つきあい」で入っている(38・男)●学生時代の友人との交流が復活した。仕事上でしか付き合いがなかった人の私生活がわかり、親しみがわいた。悩みを日記に書き、コメントをもらうことで励まされている(38・女)●今までかかわることのなかった人

と話すことができ、新鮮である(38・女)

39 歳 個人のポータルサイトのようだ(39・男)●いろいろな人の本音に接することができる(39・男)●なぜ日本語で閉じられているのか。日本のサービスは規模が小さく快適だが、コンテンツに魅力を感じない(39・男)●匿名コミュニケーションとどのように利用形態が異なるのか、関心がある。いまのところトラブルに会ったことはない。よく考えると、かなり匿名に近いにもかかわらず、なぜこんなにも違うのか。コミュニティへの加入は自己表現だと思っている。所属コミュニティの公開レベルがコントロールができるといい(39・男)●日記を書くため、ふだんからネタを探ようになった(39・男)●面識のない同じ趣味の人からリンクの申し出があり、承諾したことがある。いったんリンクを張ると、生年月日など個人情報の閲覧が可能になる。リンクを申し出た人は、元彼の今の彼女だった。私の個人情報を知るために偽名を使っていた。被害妄想かもしれないし、騙される私が悪いのかもしれないが、それ以来、趣味などを公開することをやめた。SNS の本人認証は甘い(39・女)●疎遠になっていた友人と親しく連絡が取り合えるようになった。日記で、その人を再発見することもあり、会った際の話になる。友だちの配偶者から承認リクエストをもらったが、接点がなく対応に困っている。友だちの手前マイクを切れず、放置している(39・女)

40 歳 SNS の理念・趣旨に賛同できたので参加している。見ず知らずの人が横行するネット社会には違和感を覚える。生身の人間関係が基本となるべきである(40・男)●ネットだけのつながりでも楽しいことを知った(40・男)●規定では 18 歳以上となっているが、17 歳以下の利用者を見かける。「非ゲイ専用」という差別コミュニティを見つけ、抗議した。今後未成年の性犯罪や差別コミュニティなど管理上の問題が生じそうな予感がする(40・男)●自己中心的で、一方的に書くだけで他人の発言にコメントにしない。こういう人が増えると SNS もつまらなくなる(40・

男)●まったくの別の理由で加入したが、どっぴりはまっている。コメントがダイレクトなのがよい(40・男)●自分が招待した人とのトラブルで、いったん退会し、他の友人の招待で再入会した。自分が招待した人を自分の友人リストからはずせないシステムは変えてほしい。黙って退会してしまう人が多く、残念に思っている(40・女)●私の公開日記を読んで、私のような人間に関心を抱き、知り合いになってくれる人がいた。内容を勘違いされ、荒し、つまり悪戯コメントを残されたのが大変だった(40・女)

41 歳 クローズドな場所なので、ブログより濃い表現ができる(41・男)●ルールやマナー、決まり事を守り、分をわきまえて謙虚に生きるべきである(41・男)●楽しかったのは、友だちが増えたこと。世代や職業の枠を超えて、刺激にも、自分の肥やしにもなっている。いろいろトラブルの話聞くが、これも含め、人間関係の訓練の場だと思っている(41・男)●楽しくやっている(41・男)●コミュニティで活動しないのが自分でも不思議である。以前から参加していたメーリングリスト上での活動の方が多(41・男)●使い方にもよるが、おもしろくて有益である(41・男)●プロフィールを詳しく公開しているので、未知の他人とふざけあえないのが窮屈だ(41・女)●悪意を持って使えば、出会い系サイトと変わらないと感じ、自分の日記を公開する機会を失した。いろいろな人の日記を読めるのは楽しい反面、リスクも感じる(41・女)●音信不通になっていた友人と再会、交流できた。コミュニティでの意見交換も実りが多い(41・女)●参加できてよかった(41・女)

42 歳 時間が埋められた感じがする。関心が復活したものもある(42・女)●仕事で疲れて帰り、笑えるコメントを見るとほっとする(42・女)●クライアントに見られる可能性がないので、仕事上の愚痴を書きやすい(42・女)●関係のない男性からマイミク登録の依頼が来て、気持ち悪かった。断ったことが知られると嫌だと思い、ずっと断れなかった。後日、断っても相手に知られ

ないことがわかり、断った(42・女)●1対1のメル友と違い、その相手が自分以外の人にどう振舞うか、どういう態度(レスなど)を取っているかが見えるため、出会い系サイトとは違う、人の出会い、見方ができると思った(42・女)●年齢ゆえか、現実社会の人間関係が充実しているから、人間関係を広げたいという意欲がほとんどなく、リンク依頼が来ても、実際に会ったことがない人は断っている。それでもリンクは増え続け、負担になっている。コメントを書く機会も減っている(42・女)●文字だけの世界ゆえ、誤解が起きやすい。見えない相手とのやりとりには注意が必要(42・女)

43 歳 IT 関連の業務に就いていることから、参加した。最初は盛り上がったが、長続きしなかった。周囲の意見も同様のようだ(43・男)●SNS は高齢者や中高年にとってハードルが低い、それでもユーザー・インターフェースの向上が必要である(43・男)●世間がひろがった(43・男)●パソコン通信時代の仲間との連絡手段として加入し、コミュニティを開設した。アクセス制限を設けられる点がよかった。疎遠だった知り合いとの連絡が活発になったことが、最大のメリットである。マイミクを「断る」ことができず、承諾も拒否もしていない相手が数名いて、頭が痛い(43・女)

44 歳 SNS は、これまでのサイトと利用意識が違うので、例えば「参加者のサイト支援意識」まで突っ込んだ設問があってもよかった(44・男)●今後馴染んでいけば、より積極的になれるのかなもしれない(44・男)●義理がたい性格なので、始めた当初はリンクしてくれている人全員の日記にレスしていたら、膨大な時間がかかり、1日の大半をSNSに使ってしまった。最近は時間を制限し、適度に参加するようにしている(44・男)●コミュニティでの人間関係が数か月の間にどんどん濃いものになっていった(44・男)●大きい写真も自動的に縮小して掲載できるようにしてほしい(44・男)●日記に付けられたコメントは、わたしを元気づけたり、楽しい気持ちにして

くれたり、と栄養剤になっている(44・男)●単にリンク相手を増やすことに燃えているような人を見かける(44・男)●一種の出会い系サイトとっていたが、違い、とてもよい出会いができた(44・女)●海外在住のため、母国語で楽しめるこのサービスはよく利用している。同じ日本人でも「こういう考え方をする人もいるのか」と感心させられる。日本人としてのアイデンティティを維持するためにも役立っている(44・女)

40代後半 知人が、どんな人と付き合っている(45・男)●初期のころは、いやな思いもしたが、人間関係を作る上での勉強になった(46・男)●友人の友人と知り合いになれたり、ネットワークが広がった(46・女)●彼女ができた(47・男)●SNSの世界を知りたくて友人に頼んで登録した。ネットのコミュニケーションは大きなムーブメントを起こす可能性を秘めている。若い人たちのリアル友だち、ネット友だちという言葉を知ったのもSNSで、勉強になる(47・女)●安定した安全なシステムを提供してほしい(48・男)●知らない人の訪問や、なぜ「足あと」に残っているのかわからない人がいるのはストークされているようで、気持ち悪い。自分を売り込みたい人や知り合いを増やしたい人にはいいのかもしれない(48・女)●ブログの更新に追われ、SNSはあまり利用していない。今後はコミュニティにも参加してみたいと思っているが、若い人が多いので、私にとってはサブの付き合いになっている。SNSはリアルで会っている人ばかりなので安心感がある。先日、日記でネット恋愛について書いたら、たくさん反応があった。ネット人格と本当の自分との間にギャップがあり、人間関係について悩んでいるようだった(48・女)●知り合って日記で書き込むうちに親しくなった(48・女)●排他的な印象を持っていたが、ネット友だちに招待され、参加することにした。足あととかマイミクとか、押しつけがましい。コミュニティでの話題は深いものがあり、2chより信頼できる。はまることなく適度に利用したい(48・女)

50代以上 本業の仲間がたくさん参加してい

ることがわかり、今ではそっちのやり取りが多い(52・男)●物書きとしては、出版社の都合で書けないことも多いが、SNSであれば自らの責任だけで書ける(55・男)●文字だけの世界ゆえ誤解が生じないように、発言に気を遣っている(56・男)●新たな知己を得た(56・男)●マイミクつながりで、友だちの輪ができた(57・女)●運営しているパソコン教室の生徒との質疑応答や親睦にコミュニティを活用している。SNSでは、非公開に設定し、重宝している(59・男)●ふつう還暦を過ぎると交友関係は狭まるのに、逆に増えている。うつ傾向の人が、わたしとの会話で癒されたと言ってくれた(63・男)●新しい友人と意見交換するのは楽しい。若い人の質問に答えるのも楽しい(72・男)